

火曜日

大阪				
神戸				
京都				
大津				
奈良				
和歌山				
金沢				
広島				
高松				
札幌				
東京				
名古屋				
福岡				
那覇				

朝回新聞

電話 06-6231-0131 www.asahi.com

《海上二突》
《狂瀾》きやうらん
《生靈》

「海上三突」〈狂瀾〉〈生霊ヲ奪ヒ〉。銘板は半分欠け、通読できない。2万人もの命を奪った明治三陸大津波は126年前の今月15日に起きた。惨状を伝える石碑が修復された岩手県釜石市唐丹町を訪ねた▼高さ2.7超の海嘯遭難記念之碑。海嘯とは津波を意味する。「東日本大震災の津波で銘板がもぎとられました」。市文化振興課の手塚新太さん(49)によると、津波の破壊力を示すため、欠けた部分はあえてそのままにした▼銘板は大阪府吹田市の国立民族学博物館で補強され、昨春、石碑にはめ込まれた。脇に破損前の全文と現代語訳を掲げた。〈荒れ狂う大波が、高々と押しよせて〉〈八百人の命を奪い〉〈生き残った人も二十名だけ〉▼手塚さんらが市内の石碑を調べたところ、横死無縁塔や溺死碑など30基以上が明治の大津波を伝えていた。被害甚大な地区に集中し、多くは水位の最高到達点にあった▼作家吉村昭氏は生存者への取材をもとに『三陸海岸大津波』を著した。私は学生時代に読み、災害の脅威に震えた。津波の前、浜は記録的な豊漁に沸き、当夜は海から轟音が響く。緊張関係にあったロシアの軍艦かと錯覚した人もいたという▼明治の碑のそばの新しい石板には、3・11を体験した住民の言葉がある。〈ゴゴゴという地なりと共に強いゆれがおそう。そして数分後、黒い波が私達の町をのみこんでいった。私がいた体育館は、もう無い〉。小学6年生の記憶である。後世に語り継ぐ強い決意を胸に刻んだ。

2022・6・14